

令和5年度和歌山県立那賀高等学校第2回学校運営協議会議事録

1 日 時 令和5年12月14日（木）10:00～12:00

2 会 場 那賀高等学校 応接室

3 日 程

(1) 開 会

(2) 校長あいさつ

出席：岸田正幸 細田能成 福山晴美 大西英喜 白井雄祐 兼本得善 森文哉
傍聴者：教頭 事務長 教務部長 生徒支援部長 特別活動部長 国際教育部長

(3) 協議題

【1】学校運営の現状について

(各部長から説明)

(生徒支援部長)

制服が、来年度新しくなる。猛暑の7月～9月と厳寒の12月～2月頃まで登下校時の服装は自由とした。

運転免許取得は、家庭の判断となった。登下校時バイクは使用不可。現時点では、問題なし。通学マナーについて、引き続き指導していく。

(国際教育部長)

姉妹校であるオーストラリアのクリスチャンカレッジが研修中。

学校要覧25ページより、短期派遣・受入、長期派遣・受入など予定どおり実施している。対面の活動が活発になっているので、生徒も実体験しながら、スキルアップしている。語学など教育的価値を感じている。課題は3つある。①3年間通じての一貫性を持った指導になっているか。②派遣費用の増大。③教員の多忙感。

(教務部長)

学校要覧14ページより、1・2年新教育課程、3年旧教育課程。教育課程の円滑な運用。学級閉鎖時は、オンライン授業実施。家庭学習は、ICTも活用。

総合的な探求の時間は、県那賀振興局と連携している。3観点の評価は1・2年であるが、業務量が増大している。来年度に向けて評価の方法を検討していく。

(特別活動部長)

那高祭（文化祭・体育祭）、ボランティア活動、地域活動、部活動の大会など通常どおり実施できて、学校に活気が戻ってきた。学習活動は、最優先であるが、特別活動も可能となり、生徒達は、勉強だけでなく、良い経験ができています。しかし、実際は時間がとれない。時間を有効に使っていく必要がある。

(意見)

- ・総合的な探求の時間の県那賀振興局との連携では、12グループ約40名が来てくれた。地域課、人権、観光、農業などの分野で関わった。よい経験となった。課題は、時間が30分程度しかない。今後、市町にも協力依頼していく。岩出市などへ。
- ・海外研修費用高騰している。今後、アメリカ研修は、行き先、期間等検討が必要である。

- ・那賀高校の進むべき方向性、どういう力をつけさせるのか。授業評価にかける時間増大。問題が、どこにあるか。全体のバランスをとる必要がある。各イベントは本当に必要なのかどうか、精選していく。スクラップしていくことも重要である。

【2】授業見学

姉妹校であるオーストラリアのクリスチャンカレッジ短期研修団が参加している1年生の芸術（書道・美術）を中心に見学した。

【3】授業見学及び感想・意見について

- ・学生時代に戻れた。よかった。
- ・書道で国際交流。楽しそうでよかった。
- ・保護者の立場では、授業見学の機会ないので、よかった。
授業参観週間にしていてもよいのでは。開放月間では見学しにくい。
- ・開放期間のPR方法を検討する。見学しやすい状況を作っていきたい。
- ・期間限定にしてみてもどうか。
- ・文化祭などのイベント系は一般公開してもいいのではないか。
- ・文化祭は多く人が来る。
- ・以前は、小学生も来ていたのでは。
- ・学校内がとてもきれいだ。
- ・新制服の値段はどうなのか。
- ・合計するとあまりかわらない。
次の会で、将来の那賀高校どうするのか、意見ほしい。

【4】那賀高校の将来について

- ・公立の良さを出す。私学は予備校化している。進学だけ考えるのがいいのかどうか。どんな生徒を育てたいのか。どういう人間になってほしいのかなどを考えていくこと必要。

(4) 閉会

校長謝辞

4 資料

- (1) 令和5年度学校要覧
- (2) 授業見学内容・配置図
- (3) 令和6年度入学生用学校案内パンフレット
- (4) 令和5年度育友会だより
- (5) 第1回議事録